



京都府南部特別支援学級（視覚障害）等担任向け研修会 報告

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、集団で長時間集まって研修をすることを避け、研修会の前に講義動画を参加者に限定配信し、テーマを変えて2部構成にしました。

このような状況の中でも、京都府南部の視覚障害のある児童生徒の教育に携わっておられる先生方が積極的に参加していただき、大変有意義な時間となりました。

<第1部> テーマ「見えにくい児童生徒につけたい力と支援」

日 時 令和2年9月1日（火）15:45～16:45
場 所 京都府スーパーサポートセンター SSCラボ
指導助言 京都府専門家チーム委員 森上 和 氏

当日は、今年度初めて視覚障害のある児童生徒を担当された先生方が小学校から5名、中学校から1名参加していただき、盲学校の2名の先生がリモートで参加していただきました。

協議・交流では、担任している子どもの日頃の様子を交えて、見えにくさのある児童生徒が困ることや課題になることを発表し合い、それに応じた支援の方法やつけたい力を考えました。

指導助言では、子どもたちの「生きる力」について、生活力や発信する力、周りの状況を捉える力などをつけていくことに加え、豊かな心を育てていけるよう、身近な指導者の関わり方について考える視点をたくさんいただきました。



【受講者の感想】

- ・基礎学力と生きる力をどうつけていくのか考えることができました。また、視覚障害のある児童を担当する先生の生の声がきけて、安心したと同時に、もっとがんばらないと！と強く感じました。
- ・子どもに耳を傾けること、生きる力をつけさせること、試行錯誤しながらやっていきたい。
- ・協議の中で新たな視点や、視覚だけに頼らない支援の仕方を考えられたことは気づきになりました。

<第2部> テーマ「ICTの効果的な活用に向けた支援の在り方」

日 時 令和2年9月14日（月）15:45～16:45
場 所 京都府スーパーサポートセンター SSCラボ
情報提供 京都府総合教育センター特別支援教育部 研究員 佐藤 雄太 氏

当日は、小学校から4名、中学校から1名参加していただき、盲学校の2名の先生がリモートで参加していただきました。

協議・交流では、見えにくさのある児童生徒がICT機器を活用するときに課題となることについて発表し合い、それらについて教員として配慮できることや本人につけたい力を考えました。

ICT機器を活用するためには、子どもたち自身が興味のあるものから始めることで便利な物であることを実感することや、本人の意思を丁寧に確認すること、お互いを認め合える学級経営を進めることなどの大切さについて情報提供をいただきました。



【受講者の感想】

- ・ICTの活用といった内容は、今後のギガスクール計画に向けて、とても役立つ内容で良いと思いました。
- ・時間があっという間に感じる程、たくさんの意見やお話を聞かせていただきました。
- ・いろいろな視点で改めて考えさせられるよい機会となりました。
- ・ICTに私自身が慣れ親しまないと子どもたちにも紹介できないので、少しずつ慣れていこうと思います。